

みんなで考えよう！ESDの推進メソッド

8月24日(水)にホテルニューガイアオムタガーデンにおいて、「ユネスコスクール・ESD研修会in大牟田」が開催され、全国各地から220名を超える参加者がありました。本研修会では、「みんなで考えよう！ESDの推進メソッド」をテーマにキャリアステージごとに分けられた分科会で熱心な議論が交わされました。全体会では、文部科学省国際統括官付ユネスコ振興推進係長の岡本彩様より、最新のESDの動向について講演をしていただきました。また、本市のESDの推進に大きな貢献をしてくださっている、大牟田柳川信用金庫様、ネイチャーガイドオオムタの柿川和機様へ大牟田市教育委員会安田昌則教育長より感謝状が贈られました。会場には、4月に発生した熊本地震に関するパネル展示とともに、義援金の呼びかけもあり、一日も早い被災地の復興を祈る催しも行われました。

ESDのさらなる推進に向けて

午前の全体会では、文部科学省において、ユネスコスクールの活動を推進しておられる岡本彩氏より「我が国のESDの動向とユネスコスクールに期待すること」の演題のもと、講演をしていただきました。講演では、3月に出版された「ESD推進の手引」をふまえ、ESDを広める(浸透させる)取組、ESDを深める(実践力を高める)取組、ESDを国際的に浸透・充実させる取組を今後進めていくことの重要性について説かれるとともに、次期学習指導要領においてもESDが重要なキーワードとなることを示されました。

午後からの分科会では、ステージ1「ESD入門と授業づくり」ステージ2「ESD推進のためのカリキュラム・マネジメント」ステージ3「ESDの視点に立った学校経営」に分かれ、各キャリアに応じてワークショップ等も取り入れながら研修がすすめられました。このうち、第2分科会では、大牟田市立吉野小学校中村敏明教諭が「持続可能な社会づくりについて自分の考えを持ち、行動する児童の育成」について実践発表を行い、東京大学の及川幸彦先生よりストーリーマップの有効性について、アクティブ・ラーニングとカリキュラムマネジメントの視点から様々な示唆をいただきました。

会のまとめでは、福岡教育大学の石丸哲史教授より、ESDとしてのゴールを明確にもち、そこに向かう意欲と喜びを持って学習をデザインすることの大切さが指摘されました。「知る→わかる→できる」という段階を経て「行動できる子ども」を育てることを念頭においた指導を、今後私たちは、心掛けていきたいものです。



文部科学省 岡本 彩氏



東京大学 及川幸彦氏



福岡教育大学
石丸 哲史 教授

大牟田市立明治小学校の実践

エネルギー環境の学習を通して

5年生が「ぼくたち、私たち環境探検隊!」の学習で、大牟田川の水質や生き物などについて調べました。上流、中流、下流を実際に歩いて水質検査をしたり、生き物調査をしたりしました。

ネイチャーガイドの柿川和機さんに指導していただき、環境を守るために人々が取り組んできたことや自分たちにできることを考え、新聞にまとめました。

2学期には4年生が、発電と二酸化炭素の排出、地熱発電などの再生可能エネルギーによる発電、電力会社による森林保全などエネルギーと環境との関わりについて調べていきます。



大牟田市上内小学校の実践

「米作りから学ぼう」の学習を通して

上内小学校の5、6年生は、地域の方々との米作りの学習を通して、地域の方々の努力や願いを知り、地域を愛する心を育てています。また、米作り体験で収穫したお米を、花ぶらす館で地域の皆さんに買っていただき、その収益金を義援金として宮城県気仙沼市立小原木小学校に送り交流を続けています。

今年度も、1学期に地域の方の指導を受けながら、学校横の田んぼに田植えをしました。今も、色鮮やかな美しい緑の稲が育っています。秋には収穫だけでなく、上内米の特徴や気仙沼の復興の状況について調べ、それをまとめたものを地域の方や保護者の皆さんに伝える予定です。

この学習を通して、地域への感謝の気持ちを新たにするとともに、東北大震災の被災者に思いを巡らし、自分たちにできることを考え、つながろうとする意欲を高めていきたいと考えています。

